

OUTWARD

SUMMER 2018 No.79



旅をする人たち

撮影 Xavier Pasche



沖繩から、ローマ字で宛名を書いた
包みで二冊の英語の本が届いた。
自転車の旅記で、二年前の冬、
徳島のぼくの家に滞在したスイス人
一家からだった。彼らは自転車で世界一
周をしていて、二年前は北海道から
南下中に、モンベル会長の辰野勇の紹
介でうちに立ち寄った。ザビエル・セ

リーヌ夫妻と、旅先のマレーシアで生ま
れたナイラ（五歳）の三人。犬とカヌー
に乗ったり、海で遊んだりして一週間ほ
ど過ごした。彼らは四年前から自転車
旅行を続けていて、故郷のスイスには
ナイラが二歳になった時に二度帰国し
たきりだ。夫妻がいった。
「今の生活は私達に合っている。夜、零

下四〇度に冷えこむ国や、砂漠を横
断する時などはハードなこともある
が、それもまた面白い。様々な国で出
会う人たちとの交流も楽しい。スイス
ではサラリーマン生活になって、家族の
時間をあまり持たず、一緒に自由で濃
厚な体験ができなくなる。旅が私達の
人生なんだ」

東の間の再会を喜んだ。



その後、メールのやりとりで、昨年
またマレーシアで次女が生まれたと聞
いた。
本のお礼をメールすると、赤ん坊を
連れてまた日本にきていると返事があ
った。九州を北上していて、このあと福
岡から韓国、中国を経てロシアに入
り、バイカル湖からモンゴルへ南下する
予定だという。ぼくは熊本の本郷に帰
りがてら、彼らに会うことにした。
大分・日田ひたに近い筑後川沿いのキ
ャンプ場で落ちあつた。先に着いたの
で犬と散歩をしていると、「アレック
スー！ ハナー！」と呼ぶ少女の音が
する。顔を向けると、ナイラが自転車

を飛び降り、犬に駆けよって二匹の首に手を回した。そのあと「ハロー！」といつてぼくにびよんと飛びついてきた。

「久しぶりだね。大きくなったな」

「ナイラは昨日から、『明日はアレックスとハナに会える！』と興奮してたの。最近は、『犬が欲しい。スイスに帰る時は犬とカヌーに乗って海を漕いで帰ろう』なんていうの。ノダさん、この子がフイービーよ。ハカ月なの」

セリーヌが夫の引くトレーラーから赤ん坊を抱え上げた。フイービーが地中海のような青い瞳でニコッと笑った。夫妻は素早くテントを張った。木々の間にロープを張り、洗濯物を干す。草の上にシートを敷いてザビエルがコーヒーを入れた。ぼくが親戚の家で貰ったパール柑を出すと、「ありがとう。フイービーの好物なんだ」と喜んだ。セリーヌがいった。

「今回は、二月末に台湾から沖縄に入つて、フェリーで鹿児島島に移動したの。沖縄は海岸がきれいだった。沖縄の北東部に生徒五人に対して教師が八人という小学校があつて、地元の人紹介で見学に行つたら、田植えの授業にナイラを加えてくれた。沖縄の海でナイラはウミガメと泳いだのよ」

「二月末だったらまだ寒かつたらう？」

「ええ、海水も冷たかつたけど、風はも

つと冷たかつた。上がると寒くてね。だけどあんなきれいな海で泳がない手はないでしょう。フイービーも海に浸かったの。まったく泣かずに笑つていたわ」

「大したもんだな。日本では海や川で泳ぐ子供が少ないんだ」

ぼくの村にもきれいな川があるが、学校で禁止されていて子供は泳がない。泳ぐのはぼくと東京から移住してきた人だけだ。日本中で、同じような

理由できれいな海や川でも泳ぐ人を見かけない。外国の川に夏行くと、そこで泳ぐ青年に日本人の姿がない。水温が二十度近くあつても決して川に入らない。勿体ない話だ。

ドーバー海峡に行つたことがある。距離三十四キロ、水温が平均十三・六度。真夏でも十六度だ。日本から行つた大貫英子さんが一九八二年に九時間かけて横断した。ここを泳ぐ人は皆、身体にグリースを塗る。来日した外国人から、欧米には「冷水浴」の習慣があると聞いた。冷たい川や湖で泳ぐのを好む人たちがいるのだ。日本の川や海は二年中泳いでもいらいの温

度だそう。近くのソバ屋に行つた。古民家を現代風に改築しており、庭には籐イスのブランコや、家具を置いたティーンテントがあり、ナイラが早速遊んでいる。建築デザイナーの

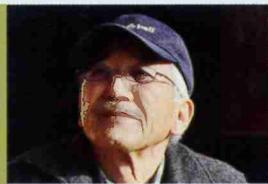
ザビエルは興味深げに造りを眺めた。「南阿蘇ではソバ打ちをしたんだ。ナイラが作つたら、麺のところが太かつたり細かつたりしてね。彼女はソバが大好きだよ」

ソバを食べる時、夫妻は上手に箸を使い、ナイラに使い方を教えた。最近では家庭学習として、夫婦で娘に英語の綴りや算数を教えているという。旅はまだ二年ほど続けるつもりだ。北欧も回りたいし、来春はアラスカ、カナダに行こうと考えている……。タフな人達である。

東の間の再会のあと、キャンプ場を発つた。ナイラが手を振つて車を追いかけた。「またね」という彼女の声がいつまでも聞こえた。



写真左／沖縄の海でウミガメと泳いだ。写真右上／沖縄の小学校では田植え体験に参加した。写真右下／2年前、2匹と遊んで犬が好きになった。また一緒に駆け回るのが夢だった。



野田 知佑 Tomosuke Noda

国内外の川をカヌーで旅してきたカヌーイスト。主な著書は「北極海へ」「ユーコン漂流」「カヌー犬・ガク」等。「日本の川を旅する」で第9回ノンフィクション賞(新人賞)を受賞。近著は「ユーコン川を筏で下る」(小学館)、「ナイル川を下ってみないか」(モンベルブックス)。



『ナイル川を下ってみないか』著者：野田知佑 #1991004 ¥980(+税)モンベルブックス刊